

GLOBE

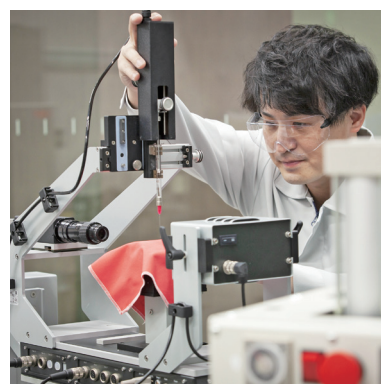
グローブ



コロナ禍、より筋肉質な体制に 新中計達成に向けさらなる企業変革へ



事業概況のご報告
TOP MESSAGE



NICCA REPORT

事業構造を大転換
注力領域「EHD事業」

INNOVATION
25

NEXT INNOVATION

フッ素フリー系撥水剤の開発で
世界的技術賞受賞



TOPICS



これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life

 日華化学株式会社

株主の皆様へ



代表取締役社長
江守康昌

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年12月期(第107期)通期決算概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大で経済活動が大きく制限された影響により、前年同期比で売上高は大きく減収となりました。しかし、生活環境衛生事業の拡大と抜本的なコストダウンが功を奏し、利益は業績予想を大幅に上回り、前年比でも増益を確保することができました。第2四半期の決算報告では、厳しい業績予想と期末配当未定の見通しをお示しし、株主の皆様にはご心配をおかけいたしましたこととお詫びいたしますとともに、変わらぬご支援をいただきましたことに心から御礼申し上げます。

さて、当社グループは公表を延期しておりました新中期経営計画「INNOVATION25」を2月に発表いたしました。全社基本ビジョン「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」のもと決意を新たに、「環境 Environment」「健康・衛生 Health」「先端材料 Digital」の3つの領域(EHD事業)に軸足を置いた事業構造へ大きく転換することで社会的課題の解決に寄与し、化学メーカーおよび化粧品メーカーとしての使命にお応えできるよう、グループ一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

▶ 2020年12月期(第107期)決算概況

売上高 **411億7千9百万円** **10.9%減** ↓

- 新型コロナウイルス感染症などの影響で各事業分野の市況大幅悪化
- 対アジア通貨円高

営業利益 **14億1千6百万円** **1.5%増** ↗

- 売上大幅減、減価償却費増も抜本的なコストダウンが奏功し増益確保

経常利益 **16億4千5百万円** **23.3%増** ↗

- 化学品海外減益、化粧品国内増益
- 雇用調整助成金、為替差損益による増益

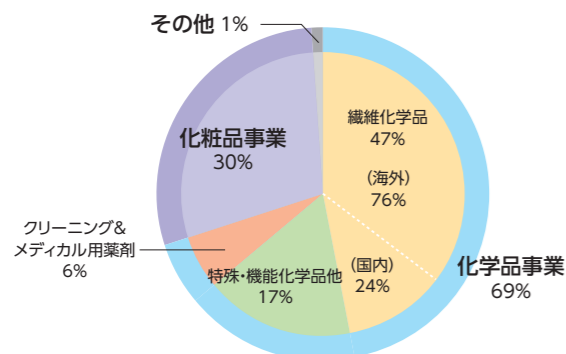
親会社株主に帰属する

当期純利益 **10億4千4百万円** **16.0%増** ↗

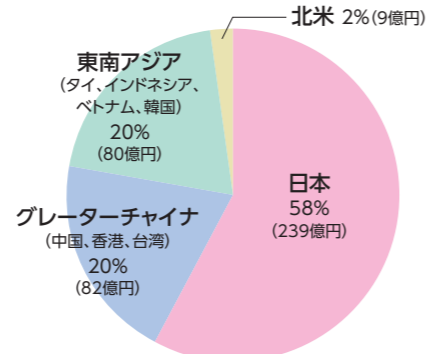
- 経常利益増による増益

※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
※%表示は前会計年度比です。

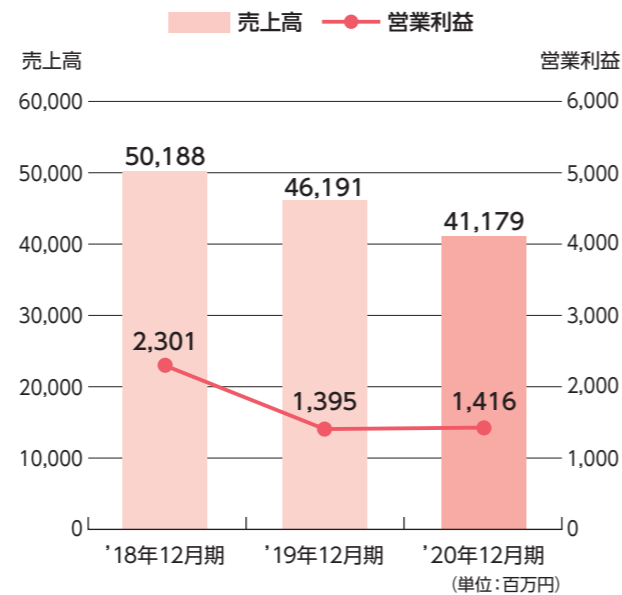
【事業別売上高比率】



【地域別売上高比率】



【売上高・営業利益の推移】



化学品事業



繊維化学品

- 繊維加工の一連の工程(精練・漂白・染色・捺染・仕上げまで)を網羅する多様な薬剤



クリーニング・メディカル用薬剤

- 業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
- 医療用器具・福祉分野用洗浄剤等



先端材料

- 機能性人工核酸、炭素繊維複合材料、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料、ナノダイヤモンド応用製品等



特殊化学品

- 感熱紙用顔色剤、AOA等の有機合成化学品
- 製紙用薬剤、金属・ゴム・電子材料用界面活性剤等



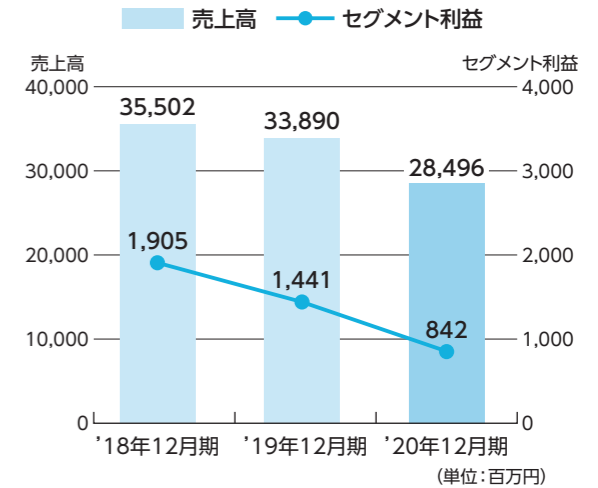
機能化学品

- 水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
- フッ素・シリコン等の工業用薬剤

売上高 **284億9千6百万円** **15.9%減** ↓

セグメント利益 **8億4千2百万円** **41.5%減** ↓

【売上高・セグメント利益の推移】



- +
-
-
-
-

化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

- 「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM

- 髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



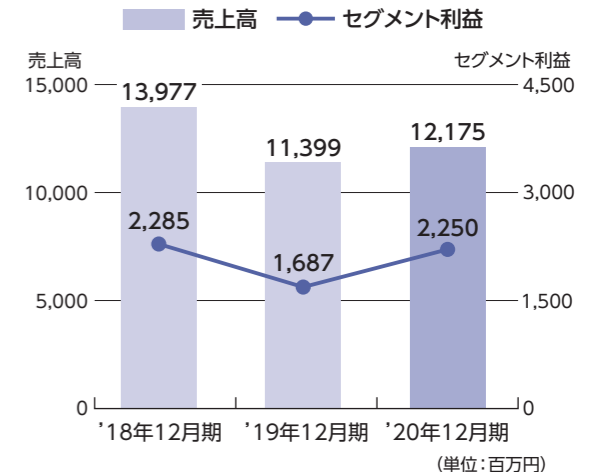
一般通販

- フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

売上高 **121億7千5百万円** **6.8%増** ↗

セグメント利益 **22億5千万円** **33.4%増** ↗

【売上高・セグメント利益の推移】



- +
- +
- +



代表取締役社長
え もり やす まさ
江守 康昌

コロナ禍を転換点とし、より筋肉質な体制に 新中計達成に向けさらなる企業変革へ

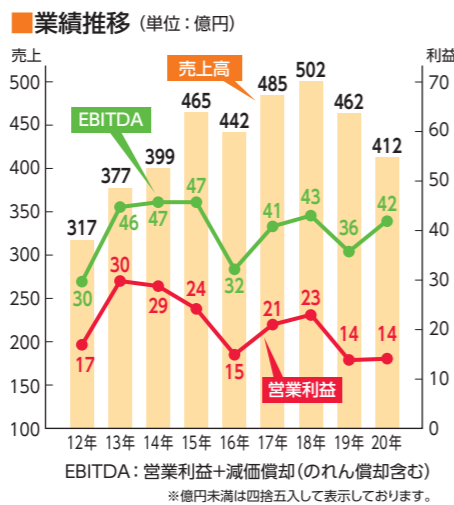
2020年12月期(第107期)の連結業績は、売上高411億7900万円(前連結会計年度比10.9%減)、営業利益14億1600万円(同1.5%増)、経常利益16億4500万円(同23.3%減)となりました。代表取締役社長・江守康昌が第107期を振り返るとともに、今年2月に発表した新中期経営計画「INNOVATION25」の具体的な取り組み内容と新たなスタートにかける思いを語ります。

大幅減収も抜本的コストダウン等で増益

2020年度は当社グループの事業領域における経営環境においても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、主力の繊維加工をはじめ、自動車、クリーニング、美容サロンなど各分野で需要が激減し、大幅な減収となりました。しかし、下期には自動車やスマートフォン向けなどの半導体関連分野で回復傾向が見られたほか、上期から引き続き推進した抗菌・抗ウイルス剤や手指消毒剤といった生活・環境衛生事業の拡大、そして国内外グループを挙げての抜本的なコストダウンが奏功し、増益を確保することができました。

セグメント別で見ると、化学品事業は特殊樹脂モノマーや抗菌・抗ウイルス剤の販売が堅調に推移したものの、大幅な減収減益となりました。暖冬の影響もあり厳しい市場環境が続いた繊維加工用薬剤は、一部回復基調が見られた中国国内向けや自動車向けなどの領域を除いて、国内外で大幅に減収となりました。コロナ禍により経済活動が停滞したことで、クリーニングや宿泊・飲食業界向けの薬剤も大幅な売上減となりました。

そのほか、アジア通貨に対する円高の影響や、前期に実施した鹿島工場(※1)2期工事、ニッカ コリア(※2)新工場建設による減価償却費の増加も利益減の要因となっています。化粧品事業は増収増益となりましたが、その牽引役となったのは山田製薬(※3)で、ODM事業の手指消毒剤の受注が好調に推移したほか、ヘアケア関連の大口顧客からの受注が回復し、業績を押し上げました。一方、国内デミは新型コロナウイルスの影響で美容室来店客数が大きく減ったこともあり減収と



なりました。そんな中でも2020年8月に発売したオイル美容ブランド「UTAU(ウタウ)」が健闘しました。またデミ コリア(※4)は日本同様に厳しい環境でしたが、新規取引先の開拓などを進め、現地通貨ベースで増収となりました。

キャッシュフローが大きく改善

このように売り上げは大変厳しかったものの、何とか増益を達成できたことに加え、連結キャッシュフローが大きく改善しました。コロナ禍を機に在庫削減を強力に推進したほか、休業実施や残業削減、積極的なテレワーク導入、役員報酬の削減・返納、販管費削減など、抜本的なコストダウンの断行により、営業キャッシュフローは64億7900万円と過去最大になりました。前期までに大型投資はほぼ終わっているため設備投資額もぐっと絞ることができたことから、期末現預金残高は16億5000万円増加し、有利子負債が32億2900万円減少、ROA、ROE、EBITDA、自己資本比率といった経営指標も向上しました。

昨夏の第2四半期の決算報告では、2020年度下半期も引き続き経済活動が大きく制限される状況が続くことを前提とし、厳しい業績予想と期末配当未定の見直しをお示しし、株主の皆様にはご心配をおかけいたしました。社員が一丸となって販促活動や開発に励んだほか、徹底的なコストダウン、働き方の多様化による業務の効率化、棚卸資産の見直しなどに取り組んだ結果、損益分岐点の下がり、財務体質も強くなりました。会社としての改革が着実に前進し、より筋肉質な企業体制へと成長を遂げることができたと捉えています。

新中期経営計画のもと 2023年度に営業利益25億円を目指す

さて、当社グループでは今年2月に新中期経営計画「INNOVATION25」を発表いたしました。本来、昨年2月に2022年度までの計画を発表予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により経営環境が一変したことから発表を一年延期し、中長期経営計画をゼロベースで見直し、2021年度から5カ年の新たな計画を策定いたしました。

全社基本ビジョンには「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」を将来のありたい姿として引き続き掲

げ、これを以下の3つの経営軸に基づき達成してまいります。

「Innovation(イノベーション)」:イノベーションにより新しい社会課題を解決する
「Efficiency(エフィシエンシー)」:積極的にデジタル化を推進し徹底的な効率化を図る
「Sustainability(サステナビリティ)」:持続可能な社会に貢献する強く活気ある企業集団の実現

本計画ではワクチンの普及などにより新型コロナが今後ある程度収束し、世界経済が緩やかに回復することを前提としていますが、今後も不透明な経営環境が続くことを考慮し、数値としては2023年度を最終年度とした3カ年経営の目標を、売上高500億円、営業利益25億円、EBITDA50億円、ROS、ROE共に5%以上に設定しました。

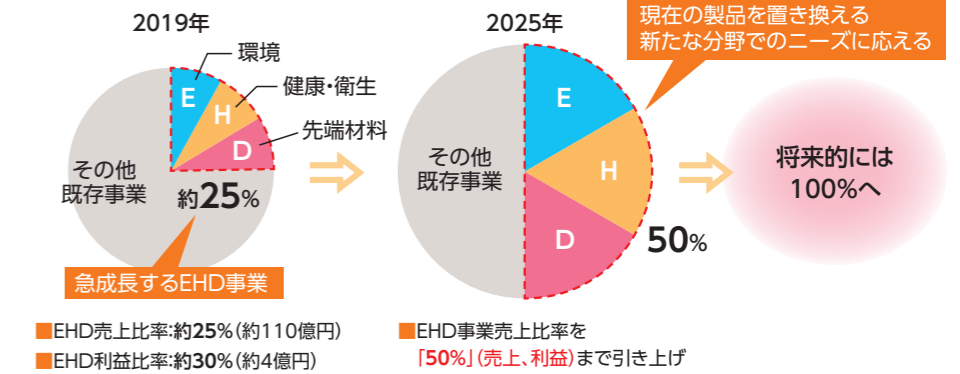
会社の歴史に刻む大きな変革の1年に

「INNOVATION25」では、不確実性の高い経営環境であっても着実に成長できる企業へとトランスフォームを成し遂げ、目標を達成するために5つの全社基本戦略を策定いたしました。

1つ目は「事業構造の大転換」です。社会課題の解決に貢献する企業として「EHD」の3領域、つまり「環境(Environment)」「健康・衛生(Health)」「先端材料(Digital)」に軸足を置いた事業構造に大きく転換します(詳しくはP5をご覧ください)。そのため、今後新製品の開発テーマはすべてEHDに紐付くものだけに絞り、より付加価値の高い製品・技術開発に注力します。もちろんこれまでEHD領域で製品開発を手掛け、その売り上げは2019年度で連結売上高の約25%を占めていますが、2025年度にはこれを50%にまで引き上げ、将来的には100%にしていきたいと考えています。

2つ目は「生産性の改革」です。全ての業務において、社内ではまだまだ人手に頼ったアナログ手法が残っています。これらのオートメーション化を推し進めていけばAI、RPA(事務作業の自動化)などのデジタル技術に積極投資し、2025年までに社員一人当たりの生産性(付加価値)を2020年度比で30%以上向上させることを目指していま

事業構造の大転換



す。

3つ目は「財務基盤の強化」です。先にも述べた2020年度に大きく改善した財務体質を維持しながら、不確実性の高い環境にあっても機動的に成長投資を実施すべく、収益力の強化とバランスシートの圧縮によって財務基盤の一層の強化を図ります。

4つ目は「サステナブル経営の推進」です。2030年にグループ全体のCO₂実質排出量を2018年比で30%削減することを新たな経営目標に加え、EHD事業の成長、ダイバーシティの推進とともに取り組み、持続可能な社会の実現、SDGs達成への貢献を目指します。

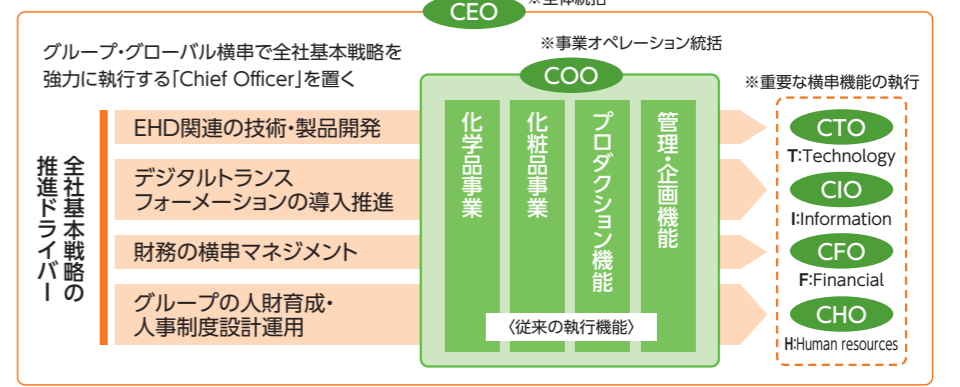
5つ目は「大家族主義の進化」です。多様な働き方で多様な人財一人ひとりが、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるような職場づくりを進めるなど、創業以来の厳しくも血の通った温かい大家族主義をグローバルに展開していきます。

「INNOVATION25」をより力強く推進していくため執行体制も見直し、新たにチーフオフィサー制を導入しました。全体を統括する最高経営責任者のCEO(Chief Execu-

tive Officer)、最高執行責任者であるCOO(Chief Operating Officer)と共に、全社基本戦略の推進ドライバーとして技術・製品開発、DX導入推進、財務、人事の分野ごとに執行責任者を置くことで、事業横断的に、かつグループ会社を含めグローバルに指揮する体制が整います。また、社外取締役に元ファンケル化粧品代表取締役で現在アンズコーポレーション取締役の山岡美奈子氏を迎えました。マーケティング戦略やダイバーシティの推進に向け、見識を発揮していただけるものと期待しています。

新中期経営計画、新執行体制のもと、新たな時代のニーズにしっかりと寄りながら企業価値向上を図るため、全グループ社員が一丸となって「INNOVATION25」を実行、達成していく決意です。創立80周年を迎える2021年は、後に振り返った際、日華化学が大きな変革を遂げた年として会社の歴史に刻まれるよう精一杯努力してまいります。株主の皆様におかれましてはこれからの当社グループの進化に期待していただくとともに、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

新役員体制



用語解説

- 【※1】鹿島工場: 鹿島臨海工業地帯の一角(茨城県神栖市)にある非イオン界面活性剤などの中核工場。グループ会社などへの原料生産拠点としての役割も担っています。
- 【※2】ニッカ コリア: 1971(昭和46)年、韓国に設立した子会社で、撥水剤・撥油剤といった撥剤で高いグローバルシェアを誇ります。
- 【※3】山田製薬(株): 1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995(平成7)年に当社が買収した子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけています。
- 【※4】デミ コリア: 2012(平成24)年、韓国に設立した子会社。韓国の美容室市場でデミ コスメティクス商品を販売しています。

「EHD」を軸足とする事業構造の大転換により 社会課題の解決と持続可能な成長を目指す

当社グループは新中期経営計画「INNOVATION25」で「EHD(環境/Environment、健康・衛生/Health、先端材料/Digital)」を重点領域に位置付けました。いずれも、今後さらに世界中でニーズが高まる領域であり、当社グループが80年にわたって培ってきた技術、ノウハウが生かせる領域でもあります。3月26日から始動する新執行体制でCTO^(※1)に就任しグループ全体の研究開発を統括する、取締役執行役員 界面科学研究所長の稲継 崇宏にEHD領域での取り組みの詳細について聞きました。

技術とノウハウを生かし SDGs達成に寄与

当社グループはかねてから主力事業である繊維加工用薬剤分野を中心に、人や地球環境に配慮した製品開発に取り組み、前中期経営計画ではEHS(環境/Environment、健康・衛生/Health、安全/Safety)への貢献をテーマに研究開発を行ってきました。

新中期経営計画「INNOVATION25」では、これまでの環境、健康・衛生に新たに先端材料/Digitalを加えた「EHD」を研究開発の重点領域に位置付けます。この背景にあるのは、全世界の共通目標であるSDGsの達成と持続的成長の実現に、当社グループの技術力でより具体的に貢献していきたいという考えです。

もちろん前中期経営計画で重視していた「安全」についても、引き続き各領域に包括してしっかりと取り組んでまいります。

3つの領域の課題やニーズに 先手を打ち応えていく



E(環境)の領域では、地球環境に関する社会的課題を解決する事業に注力することで、持続可能な社会と循環型経済の実現に寄与します。当社グループではこれまで、主力の繊維加工用薬剤のフッ素フリー系撥水剤(詳しくはP6をご覧ください)など、環境対応と機能性を兼ね備えた製品の拡充に取り組んできました。

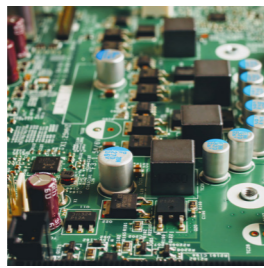
今後はそれらの開発とともに天然由来原料・再生資源等の活用も加速させることで、製造過程、製品性能、製品成分などあらゆる

面で環境対応を進め、社会全体のCO₂排出量削減に貢献する技術・製品開発に一層注力してまいります。



H(健康・衛生)の領域では、ウイズコロナ時代に社会の要望が高まっている健康・衛生関連製品の開発を強化することにより、事業化を推進していきます。既に昨年8月には、「生活・環境衛生事業開発室」を設置し、抗ウイルス剤や手指消毒剤など、これまで複数の部署やグループ会社で個別に手がけていた生活・環境衛生に関する事業に横串を刺し統括することで、製品開発を加速させてきました。

また、個別化医療に有用な体外診断薬キットなど次世代医療向けの事業化展開や、感染症予防に役立つ製品開発を推進し、世界中の人々の衛生的で健康な暮らしに寄与します。



D(先端材料)の領域では、IoTやAIなど最新技術の活用が進むスマート社会の進展により、デジタルデバイ

スや半導体の需要が急拡大しています。当社グループでは近年注力してきたフッ素化学品^(※2)に加え、今年から「スペシャリティケミカル事業部」を新設し、既にNICCAイノベーションセンター(NIC)内に次世代材料開発環境を整備するなど、5G・6Gといった次世代通信で必要とされる高周波・低誘電率材料など先端材料の研究開発をさらに強力に推進してまいります。



取締役執行役員
界面科学研究所長
いなつぎ たかひろ
稲継 崇宏

EHD各領域のより具体的な取り組みなどについては、新中期経営計画「INNOVATION25」説明資料をご参照ください。

2025年にEHD売上比率を50%に

2019年度の当社グループにおけるEHD領域での売り上げは全体の約25%でしたが、前述のように当領域に一層注力することで、2025年には売上比率を50%まで引き上げる計画です。

EHD領域での成功の鍵は、社会課題にマッチした新製品・新ソリューションをいかに迅速に提案できるかにあると考えます。そのためには、さらなるパートナー企業、大学等との連携によるオープンイノベーションが不可欠であり、その創発の場として引き続きNICをフルに活用していきます。

また、グループ全体で研究開発の状況を一元管理するマネジメントシステムを導入し、開発リソースの見える化と最適配分を進めるほか、実験データなどさまざまなデータを組織全体の知見として蓄積し活用を進めることで研究開発効率を飛躍的に向上させます。さらにAIを用いたデータ解析ツールなどの導入も予定しており、一人ひとりの対応力と生産性を高めながら、新しい試みに挑戦し開発スピードを加速させていきます。

EHDのいずれも当社の技術やノウハウを生かせる、非常に親和性が高い領域であり、グループ全体でのグローバルな連携を一層強化していくことで、「INNOVATION25」を着実に達成し、社会課題の解決に寄与してまいります。既に着々と下準備を進めています。当社グループの今後の飛躍にぜひご期待ください。

【※1】CTO Chief Technology Officer
【※2】フッ素化学品
精密機器・半導体・ディスプレイ等の製造設備で使用される潤滑油・グリースをはじめ、スマートフォン・レンズ用の防汚剤など特殊な用途で使用される材料。

neaseed 高い撥水性と優れた風合いを実現 /
●フッ素フリー系撥水剤「ネオシード」NR-8800

業界の常識を覆す性能を実現し 世界的技術賞を受賞

アパレル業界では繊維に水をはじく機能を持たせる「撥水剤」が広く使われていますが、より健康と環境に優しいフッ素フリー系の需要が拡大しています。当社では長年フッ素フリー系撥水剤の開発・販売に取り組んでおり、2018年に発売した「ネオシード NR-8800」は、従来困難とされた「高い撥水性」と「柔軟な風合い」の両立を実現。優れた開発製品・技術に対する世界的な荣誉ある賞「2020 R&D 100 Award」を受賞しました。開発に携わった二人に話を聞きました。

「フッ素フリー」が世界的なトレンドに

撥水剤はスポーツウェアやカジュアルウェアなど、アパレル製品に広く使われています。従来は、撥水性能が非常に高いフッ素化合物を含む「フッ素系」の撥水剤が使われていましたが、2000年代以降世界的なアパレル・スポーツブランドを中心にサステナブル活動が活発化し、より健康と環境に優しい撥水剤を求める動きが急速に拡大しています。当社ではこうした動きが広がる前からフッ素フリー系撥水剤の開発を進めており、2007年にはフッ素フリー系撥水剤「ネオシード」シリーズ^(※1)の本格販売を開始し、以降、機能性向上を目指して改良を重ねてきました。

ダウ社と共同開発、両社のノウハウが生きる

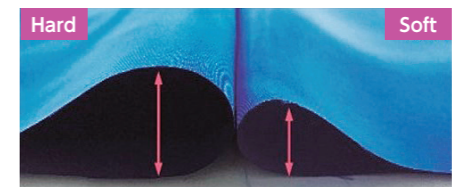
特にカジュアルスポーツ・アウトドアウェアでは、着用時の快適性を損なわない柔軟な風合いが求められますが、フッ素フリー系撥水剤では「撥水性」を上げると「生地



撥水剤が加工されるダウンジャケット(イメージ)

は、さらなる技術向上を目指す中で、かねてからのビジネスパートナーであるダウ社^(※2)との共同開発を開始しました。ダウ社のシリコーン技術と当社の界面科学技術を融合し、数百のサンプルを試した結果、2018年に「ネオシード NR-8800」が完成しました。

当製品は、撥水性能はもちろん、洗濯耐久性^(※3)などの撥水加工後の生地物性への影響もクリアした上で、従来のフッ素フリー系撥水剤を加工した生地と比較し、ゴワつきがなく非常に柔らかい質感を実現した画期的な製品です。



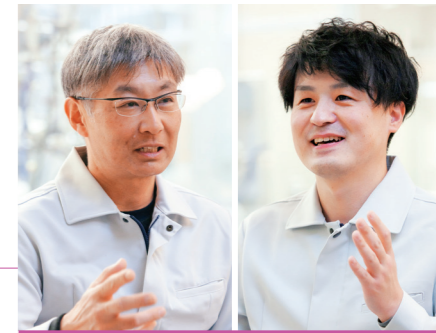
従来品(左)に比べて、しなやかな質感に(右)

「撥水剤においてさまざまな知見がある当社が技術を着実に積み重ねて完成した製品で、他社が簡単には真似できない性能を実現しているという自信があります」と開発担当者は語ります。

市場拡大とともにシェアアップへ

これらの性能がお客様に支持され、付加価値の高い製品として売上を順調に伸ばし、現在までに国内外のカジュアルスポーツ・アウトドアウェアに多数採用いただいています。さらに、昨年10月の「2020 R&D 100 Award」の受賞も追い風となり、現在も多くの問い合わせが寄せられています。

フッ素フリー系撥水剤の現在の世界市場規模は年間6,000トン・約50億円ですが、5年後には2倍近くに増加すると予想されています。当社は現在約15%のシェアですが、2025年には30%へ高めていく計画です。



界面科学研究所 商品開発研究部
繊維化学品開発1グループ

サブリーダー
ごとう あきひろ
後藤 昌央
まえだ こうすけ
前田 高輔

R&D 100 Award
米国「R&D World Magazine」主催の、世界的研究機関や企業が開発し過去1年間に実用化された製品・技術の中から最も優れた100件を選出して表彰するもの。2020年度の国内受賞はトヨタ自動車、豊田中央研究所、日立製作所と当社の4社。

アパレル産業は、世界規模で見ると人口増加や生活水準向上に伴い、まだまだ需要が拡大しより高性能な製品が求められる成長分野です。NR-8800は開発当初からグローバル展開を視野に入れ、日華化学(中国)^(※4)をはじめとする海外グループ会社と連携し、各地のお客様からの要望や設備環境などに応じた総合的な製品開発を行ってきました。結果として、中国で好評をいただき、その知見を生かし現在では世界各地での販売が実現、さらなる展開を目指しています。今後は、ネオシードシリーズはもちろん、その他の繊維加工用薬剤においても一層の機能性向上に向けて改良を重ね、人と環境に優しい製品づくりを進めていくことで、繊維産業および社会のサステナビリティ向上に寄与してまいります。

【※1】「ネオシード」シリーズ(詳しくはこちらをご覧ください)ハスの葉の水をはじく構造をヒントに開発した、当社で製造・販売しているフッ素フリー系撥水剤。
【※2】ダウ社
1897年設立の米国ミシガン州に本社を置く世界的素材化学メーカー。
【※3】洗濯耐久性
従来のフッ素フリー系撥水剤で課題となっていた、洗濯を重ねることによる撥水性能低下への耐久性のこと。
【※4】日華化学(中国)
2002年、中国浙江省杭州市に設立した子会社(当時は浙江日華化学)。中国市場において薬剤の製造販売を主に手がけ、研究開発も行っています。

手肌をいたわる手指消毒剤「エコルセ」(医薬部外品)

エコルセは当社グループが開発・製造する、品質・有効性・安定性が認められた手指用消毒剤です。主にプロ向けとして介護現場などで約10年ご愛顧いただいております。昨今は感染症対策が日常となる中、大変多くのご注文をいただいております。美容サロン向け販売や一般販売も開始するなど、より多くの方にお使いいただけるよう、さらなる販路拡大を進めております。今後も生活・環境衛生に関わる製品の開発を通じ、人々の健康で豊かな暮らしに寄与してまいります。

[詳細はこちら](#)

▶ エコルセ 4つの特長

- ① 様々な菌・ウイルスを素早く消毒**
有効成分が約30秒で効果を発揮、さらに皮膚に残留することで持続的に作用
- ② 手肌に優しい保湿成分配合**
ユーカリ油など手肌のうるおいとバリア機能に必要な保湿成分を4種類配合※
- ③ 品質を重視**
基材には国産の天然エタノールを使用し、当社グループ製薬会社(山田製薬株)の高度な品質管理体制のもとで製造
- ④ さらっとした使用感**
「消毒後すぐに作業ができるように」との声に応え、うるおいを保ちつつ、さらっとした使用感に

※保湿成分:中鎖脂肪酸トリグリセリド、ユーカリ油、アジピン酸ジイソブチル、dl-ピロリドンカルボン酸ナトリウム液



エコルセの1リットルスプレーボトル(4リットルの詰替えボトル容器サイズもご用意しております)










福井県内を中心にドラッグストアを展開するゲンキー株式会社(東証一部)主催の「福井を元気に!プロジェクト」に参加しております。(プロジェクトの詳細はバナーをクリック)

エイジングケア※1の美容室専売ブランド「Eral(イール)」がサステナブルへの取り組みを強化し、全面リブランド

「イール」は誕生から10年を迎えたことを機にブランド初の全面リブランディングを実施、「髪も、世界も、美しく。」をコンセプトとし商品も全面刷新いたしました。SDGsの達成に寄与し、美容室、お客様と一生のお付き合いを続けたいという思いから、主に以下の4つの取り組みを強化してまいります。今後もエイジングケアとサステナブルを融合させ、美しく健康的な髪と自然環境の維持を追求してまいります。

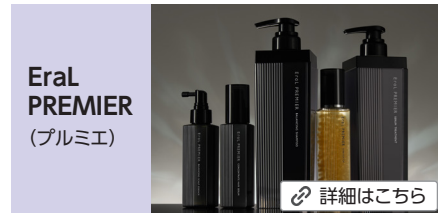
[詳細はこちら](#)

▶ イールのSDGs4つの取り組み

- ① 世界の美を意識した環境配慮の容器と資材**    
バイオマスPET、スマートecoパック、FSC認証紙等
- ② 美容室の未来および美容を目指す若者をバックアップ** 
ヘッドキュア※2教育のe-ラーニング化、美容学校でのヘッドキュアアカデミー実施、イール独自の奨学金制度設立
- ③ 植物と科学を融合した機能性処方で、一人ひとりの悩みをサポート** 
理想の仕上がりや性別に応じたヘアケア商品とヘッドキュアメニューを組み合わせでご提案
- ④ 女性が美しく輝き続けるための最先端エイジングケア研究** 
頭皮と髪のみずみずしさを維持し、お客様本来の美しさを支えるケア技術を徹底的に研究し提供

※1 年齢に適したお手入れ ※2 頭皮環境を向上させるイール独自のプロの手技による美容マッサージ施術

■2021年2月リニューアル発売



Eral
PREMIER
(プルミエ)

[詳細はこちら](#)

■2021年4月リニューアル発売



Eral

[詳細はこちら](#)



Eral
HOMME
PRIME
(オムプライム)

[詳細はこちら](#)

株主優待制度 変更のご案内

今般、当社株式の投資魅力を高め、かつ当社商品に対するご理解をより深めていただくことを主な目的として、株主優待の内容を変更いたしました。詳しい変更内容につきましては、[こちらをご覧ください](#)。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4-1
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031

※取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店でっております。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部・名古屋証券取引所 市場第一部

一単元株式数 100株

証券コード 4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

表紙写真説明 ▶ [左上] 手指消毒剤「エコルセ」

[左下] D(先端材料)分野の高機能樹脂等が使われるスマートフォンのイメージ

[右上] 撥水加工を施した生地での撥水性能を確認している開発担当者

[右下] 4月リニューアル発売の「Eral」